

研究課題名	当院心不全患者におけるハートノート・心不全ポイント自己管理 用紙導入による半年以内の再入院抑制効果の検証
研究期間	研究許可日～2025年12月31日
研究対象	2020年～2022年に当院でうっ血性心不全にて入院加療し、自宅ま たは施設退院後、半年間の追跡調査が可能であった症例を対象と する。2020年12月～2021年11月までに入院した症例をハートノ ート非導入群、2021年12月～2022年11月まで入院した症例のう ちハートノートを導入した群をハートノート導入群とする。
研究の目的・方法	大分県では心不全患者の心不全再入院を防ぐため、2019年より大 分県心不全包括ケアカンファレンスが発足し、「大阪心不全地域医 療連携の会」が発案したハートノート・心不全ポイント自己管理 用紙の導入にむけた向けた活動が開始された。ハートノート・心不全 ポイント自己管理用紙は患者教育の標準化目的としたハートノ ートと評価方法の標準化を目的とした心不全ポイント自己管理用紙 の二組の冊子となっている。 当院では2021年よりハートノート・心不全ポイント自己管理用紙 を導入しているが、これらを導入したことによる効果の検証はな されていない。そのため今回は、当院心不全患者におけるハートノ ート・心不全ポイント自己管理用紙の導入が半年以内の再入院抑 制効果をもたらしているかを検証することを目的とする。
研究に用いる試料・ 情報	診療録より退院時の以下の項目を調査する。 ① アウトカム：退院後6ヶ月時点までの転帰 ② 基本属性：年齢・性別・身長・体重・体格指数(body mass index)・ 基礎疾患・New York Heart Association分類・心臓エコー検 査(Left Ventricle Ejection Fraction)・収縮期血圧・併存疾 患(高血圧症、脂質異常症、心房粗細動、糖尿病、慢性腎臓病、 脳卒中、慢性閉塞性肺疾患、悪性腫瘍、貧血)・心臓デバイ スの有無及び種類・心不全入院歴と心不全罹患期間・喫煙歴(現 在喫煙しているか)・転帰先と同居者の有無・介護保険の有無 と介護度・認知症の有無 ③ 薬物情報：アンジオテンシン変換酵素阻害薬/アンジオテンシ ンⅡ受容体拮抗薬またはアンジオテンシン受容体ネプリライ シン阻害薬・β遮断薬・ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬・ ナトリウム/グルコース共輸送体2阻害薬・利尿薬・スタチン・ カルシウム拮抗薬・強心薬・可溶性グアニル酸シクラーゼ刺激

	<p>薬・抗不整脈薬</p> <p>④ 血液データ：脳性ナトリウム利尿ペプチド・ヘモグロビン・血清クレアチニン・推算糸球体濾過値・アルブミン・ナトリウム・カリウム・低比重リポタンパク質・高比重リポタンパク質・トリグリセライド</p> <p>⑤ リハビリテーション評価：リハビリテーションの有無・リハビリテーション期間・歩行自立の有無・CLINICAL FRAILTY SCALE</p>
研究責任者・担当者	リハビリテーション科 河村 卓実